05－13　旧橋撤去工（SQ0504、SQ0505、SQ0506、SQ0507、SQ0508、SQ0509、SQ0511、SQ0512）

「20　施工パッケージ　No.126　高欄撤去、No.127　アスファルト舗装版破砕・積込み、No.128　床版１次破砕・撤去、No.129　床版１次及び２次破砕・撤去、No.130　桁１次切断・撤去、No.131　桁１次及び２次切断・撤去、No.132　アスファルト塊運搬、No.133　床版運搬」による。

05－14　取りこわしコンクリート殻処理（SPX122）

「20　施工パッケージ　No.151~~152~~　殻運搬」による。

05－15　吹付法面取りこわし工（SPX027、SPX207）

「20　施工パッケージ　No.28　吹付法面取壊し」による。

06－02　コンクリートブロック積（張）工

１）土木工事標準単価を使用する場合

勾配が1割未満（1:1.0未満）の法面に施工するブロック積みで、JISタイプ（JISで規定する形状・寸法）の積ブロック（間知・ブロック質量150kg/個未満）を使用する場合。

２）施工パッケージ型積算方式による場合

間知ブロックの積工（勾配1割未満、ブロック重量150kg/個以上450kg/個以下）の場合

06－02－100　コンクリートブロック積（張）工（SPX039～SPX044、SPMF01）
「20　施工パッケージ　No.36　間知ブロック積、No.37　大型ブロック積、No.38　間知ブロック張、No.39　平ブロック張、No.40　連節ブロック張、No.41　緑化ブロック積」による

06－02－200　胴込・裏込コンクリート打設（SPX047、SPMF02）
「20　施工パッケージ　No.44　胴込・裏込コンクリート」による。

06－02－300　胴込・裏込材投入（SPX048、SPMF03）
「20　施工パッケージ　No.45　胴込・裏込材（砕石）」による。

06－02－400　遮水シート張工（SPX049）
「20　施工パッケージ　No.46　遮水シート張」による。

06－02－500　吸出し防止材（全面）設置（SPX050、SPMF04）
「20　施工パッケージ　No.47　吸出し防止材（全面）設置」による。

06－02－600　客土投入（SPX044）
「20　施工パッケージ　No.41　緑化ブロック積」による。

06－02－700　コンクリート打設（SPX052、SPX053）
「20　施工パッケージ　No.49　現場打基礎コンクリート」による。

06－02－800　植樹工（SQ0601）
「20　施工パッケージ　No.48　植樹」による。

３）治山林道必携【積算・施工編】（林野庁参考歩掛）による場合

治山事業（渓間工含む）における間知ブロックの積工（勾配１割未満、ブロック質量150kg/個未満）の場合
林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」４森林整備保全事業標準歩掛第２編治山~~共腹工~~第３山腹工３－１７~~６~~（参考歩掛）コンクリートブロック積工」による。

06－06　鉄線篭工

06－06－200　じゃかご工（SPX126、SPX128、SPM201、SPM202）

1　適用範囲

20　施工パッケージ　No.134　じゃかご、No.136　止杭打込」による。治山事業におけるじゃかご工は、下記歩掛を適用すること。

2　施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

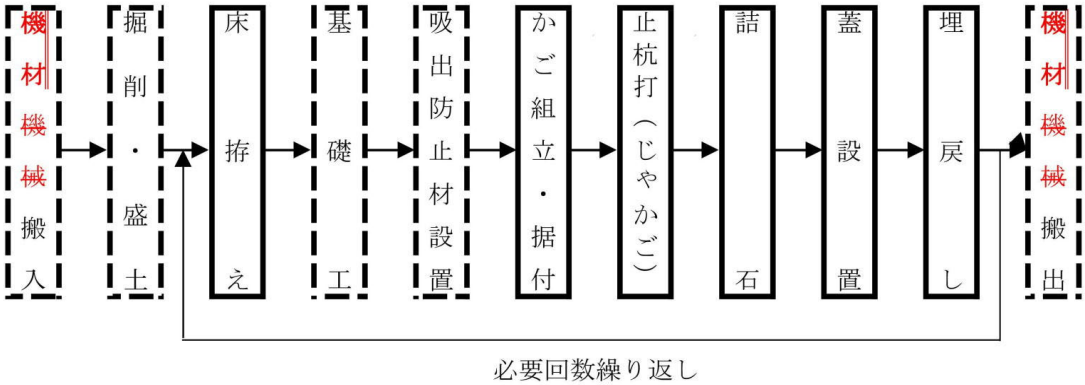


図2.1　施工フロー

備考　本歩掛で対応しているのは実線部分のみである。

3　機種の選定

機種、規格は次表を標準とする。

表3.1　機種の選定

機　　種	規　　格	台数	摘　　要
バックホウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第3~~1~~次基準値） 山積0.5m3（平積0.4m3）	1	

4　施工歩掛

じゃかご工の施工歩掛は次表とする。

表4.1　じゃかご工施工歩掛

（10ｍ当たり）

名　　称	規　　格	単　位	じゃかご径(cm)		摘　　要
			45	60	
詰　　石		m3	1.5	2.7	
世　話　役		人	0.2	0.3	
特殊作業員		〃	0.7	1.3	
普通作業員		〃	0.7	1.2	
バックホウ（クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第3~~1~~次基準値）　山積0.5m3（平積0.4m3）	h	0.2	0.4	

備考１　本歩掛は、床拵え、かご組立・据付け、止打杭、詰石、埋戻し及び平均小運搬距離30mまでの小運搬を含む。ただし、平均小運搬距離が30mを超える場合は、運搬工を別途計上する。

２　詰石量は、（式1）にて補正済の数量である。

３　運搬機械が上表により難い場合は、別途考慮する。

４　止杭を必要とする場合は、打込費として止杭１本当たり普通作業員0.06人及び材料費を別途計上すること。なお、止杭は松丸太末口９cm、長さ1.5ｍを標準とする。

５　吸出防止材等が必要な場合は別途考慮し、吸出防止材の厚さ10mmは標準とする。なお、本歩掛に吸出防止材の設置手間は含まれていない。

6　φ3.2mmは仮設工事に、φ4.0mmは本工事用に使用することを標準とする。
7　じゃかごの撤去歩掛は、上表の50%とする。

5　材料使用量

詰石材、吸出防止材の使用量は次式による。

詰石材の使用量（m3）＝かご容積（m3）×（1×K）……（式1）
吸出防止材の使用量（m2）＝設置数量（m2）×（1×K）……（式2）
K：補正係数

表5.1　補正係数（K）

種　　別	詰　石　材	吸出防止材
補　正　係　数	－0.05	＋0.07

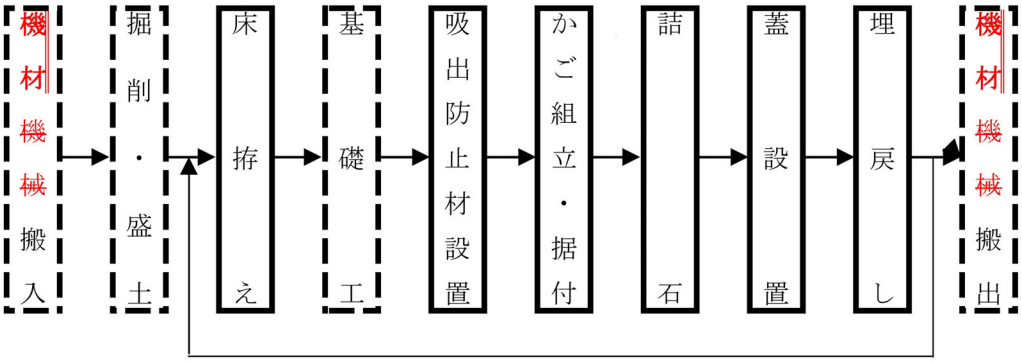
06－06－300　ふとんかごエ（SPX127、SPM201）

1　適用範囲

「20　施工パッケージ　No.135　ふとんかご」による。治山事業におけるふとんかご工は、下記歩掛を適用すること。

2　施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



必要回数繰り返し

図2.1　施工フロー

備考　本歩掛で対応しているのは実線部分のみである。

3　機種の選定

機種、規格は次表を標準とする。

表3.1　機種の選定

機　　種	規　　格	台数	摘　　要
バックホウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.5m3（平積0.4m3）	1	

4　施工歩掛

ふとんかご工の施工歩掛は、次表とする。

表4.1　ふとんかご工施工歩掛

（10m当たり）

ふとんかご規格		高(cm)	40	50	60	摘　　要
		幅(cm)	120			
名　　称	規　　格	単 位				
詰　　石		m3	4.6	5.7	6.8	
世　話　役		人	0.6	0.7	0.8	
特殊作業員		〃	0.6	0.8	0.9	
普通作業員		〃	1.7	2.1	2.5	
バックホウ（クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第3~~1~~次基準値）山積0.5m3（平積0.4m3）	h	2.3	2.9	3.4	

備考1　本歩掛は、床拵え、かご組立・据付け、止打杭、詰石、埋戻し及び平均運搬距離30mまでの小運搬を含む。ただし、平均小運搬距離が30mを超える場合は、運搬工を別途計上する。

2　本歩掛は、階段式のみ適用し、スロープ式には適用しない。

3　詰石量は、（式1）にて補正済の数量である。

4　運搬機械が上表により難い場合は、別途考慮する。

5　吸出防止材の設置の有無に関わらず上表を適用することが出来る。ただし、設置する場合は、材料費を別途計上すること。なお、吸出防止材は厚さ10mmを標準とする。

6　φ3.2mmは仮設工事に、φ4.0mmは本工事用に使用することを標準とする。

7　ふとんかごの撤去歩掛は、上表の50%とする。

5　材料使用量

詰石材、吸出防止材の使用量は次式による。

詰石材の使用量（m3）＝かご容積（m3）×（1＋K）……（式1）

吸出防止材の使用量（m2）＝設置数量（m2）×（1＋K）……（式2）

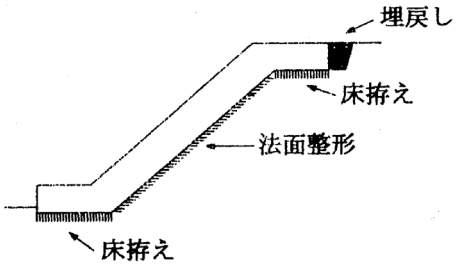
K：補正係数

表5.1　補正係数（K）

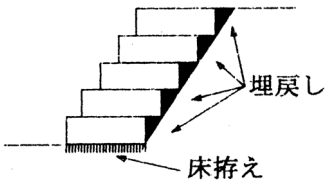
種　　別	詰　石　材	吸出防止材
補　正　係　数	－0.05	＋0.07

（参考資料）かご工（じゃかご、ふとんかご）参考図

① じゃかご



② ふとんかご（階段式）



06－06－400　二重布団かご工（SPEH03、SPEH04）

1　適用範囲

本歩掛は、林道等開設工事及び海岸工事等における、二重布団かご工（高さ50cm、60cm）の施工に適用する。

2　施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

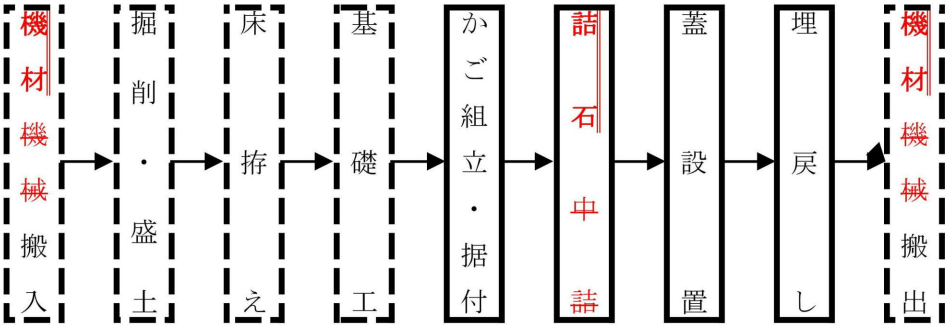


図2.1　施工フロー

備考　本歩掛で対応しているのは実線部分のみである。

3　機種の選定

機種、規格は次表を標準とする。

表3.1　機種の選定

作業内容	機　　種	規　　格	単位	数量
狭隘で旋回範囲に制限がある場合	バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値）・クローラ型 山積0.45m3（平積0.35m3）	台	1
上記以外の場合	バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値）・クローラ型 山積0.8m3（平積0.6m3）	〃	1

4　施工歩掛

（1）機械中詰

表4.5　二重布団かご施工歩掛（機械中詰）

（１本当たり）

網　目 (cm)	高　さ (cm)	幅 (cm)	長　さ (m)	詰石量 (m3)	普通作業員（人）			バックホウ運転（時間）	
					組　立 据　付	詰　石	計	排出ガス対策型・ｸﾛｰﾗ型 山積0.45m3 (平積0.35m3)	排出ガス対策型・ｸﾛｰﾗ型 山積0.8m3 (平積0.6m3)
13	50	120	2	1.20	0.08	0.13	0.21	0.11	0.06
			3	1.80	0.11	0.20	0.31	0.16	0.09
			4	2.40	0.13	0.27	0.40	0.22	0.12
13	60	120	2	1.44	0.08	0.16	0.24	0.13	0.07
			3	2.16	0.11	0.24	0.35	0.19	0.11
			4	2.88	0.13	0.32	0.45	0.26	0.14

備考１　本表は、内篭として内張ネットを使用する場合に適用する。（ネット張手間半巻を含む）

２　床拵え（0.2人/10m2）は別途加算する。

３　内張ネットを全巻使用する場合は、ネット張手間として篭１ｍ当たり普通作業員0.01人を加算する。

06－14－400　土留工（フリーウッドウォール）

Ｈ＝1.75m

表1.1　土留工（フリーウッドウォール）施工歩掛

（1.0基、2.7m当たり）

名　　称	規　　格　　等	単　位	数　　量
丸　　太	主支柱　Ｌ＝1.8m　Ｄ＝10cm 1.8m×0.1^{2}m×４本×1.05	m3	0.08
〃	成木　　Ｌ＝2.7m　Ｄ＝10cm 2.7m×0.1^{2}m×10本×1.05	〃	0.28
〃	床敷木　Ｌ＝1.6m　Ｄ＝10cm 1.6m×0.1^{2}m×８本×1.05	〃	0.13
〃	中支え木Ａ　Ｌ＝1.0m　Ｄ＝10cm 1.0m×0.1^{2}m×８本×1.05	〃	0.08
〃	中支え木Ｂ　Ｌ＝0.8m　Ｄ＝10cm 0.8m×0.1^{2}m×４本×1.05	〃	0.03
〃	副支え木Ａ　Ｌ＝2.7m　Ｄ＝10cm 2.7m×0.1^{2}m×６本×1.05	〃	0.17
〃	副支え木Ｂ　Ｌ＝1.3m　Ｄ＝10cm 1.3m×0.1^{2}m×４本×1.05	〃	0.05
ボ　ル　ト	Ｌ＝300mm　Ｄ＝16mm　0.77kg/本×16本 Ｌ＝200mm　Ｄ＝13mm　0.41kg/本×60本	kg	36.92
鉄　　釘	Ｌ＝15.2cm　2.38kg/100本×56本	〃	1.33
防砂マット	ｔ＝10mm	m2	4.86
裏込砂利		m3	1.30
普通作業員	組立（ボルト穴あけ、締付け、釘打ち含む）	人	4.10
計			

備考１　本表には、20m程度の小運搬及び埋土を含む。

２　材料のロス（端材等）は、５％を標準とする。

３　丸太、丸太皮はぎ加工は、別途計上する。

06－14－450　木製校倉式土留工

林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」~~３~~７森林整備保全事業標準歩掛の制定について第１編共通工第７木材利用工７－１－６木製校倉式土留工による。

06－14－460　（参考歩掛）木製枠工（ユニット式）

林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」７森林整備保全事業標準歩掛の制定について第１編共通工第７木材利用工７－１－７（参考歩掛）木製枠工（ユニット式）による。

07－05　集水桝設置（SPX077）

「20　施工パッケージ　No.95　プレキャスト集水桝」又は、「07－09－100　　山腹水路工」　によるものとする。

07－06　ボックスカルバート布設（SPX084）

「20　施工パッケージ　No.91　ボックスカルバート」による。

07－07　函渠工(1)（SQ0704）

「20　施工パッケージ　No.149~~150~~　函渠」による。

07－08　函渠工(2)（SQ0705）

「20　施工パッケージ　No.150~~151~~　コンクリート（場所打函渠）」による。

3　機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表３．１ 機種の選定

作業種別	機 械 名	規　　格	単位	数量	摘　要
掘削及び 据 付 け	バックホウ	排出ガス対策型（第２次基準値） クローラ型・クレーン機能付 山積0.28m3（平積0.2m3）吊能力1.7ｔ	台	1	
資材運搬	不整地運搬車	排出ガス対策型（第１次基準値） クローラ型・ダンプ式2.5ｔ積	〃	1	必要に応じて 計上

（注）１　運搬機械が上表により難い場合は、別途考慮する。
　　２　不整地運搬車は賃料とする。

4　編成人員

山腹水路工の日当たり編成人員は、次表を標準とする。

表４．１ 日当たり編成人員

（人）

工　　種	世　話　役	特殊作業員	普通作業員
山腹集水路・排水路工 山腹明暗渠工 山腹暗渠工	1	1	2

5　施工歩掛

（１）山腹集水路・排水路工

①　山腹Ｕ型側溝（機械据付）歩掛　（07－09－110）（SPME01）

ア　日当たり施工量

日当たり施工量は、次表を標準とする。

表５．１ 日当たり施工量

（m/日）

掘削断面積（m2）	0.5m2以下	0.5を超え1.0m2以下
日当たり施工量	14.7	10.4

（注）１　本歩掛は、平均運搬距離50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が50mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
　　２　本歩掛は、床掘り（仕上げ含む）、基礎、及び埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。
　　３　表面コンクリートの打設は、「04 コンクリート工」により別途計上する。

イ　諸雑費

諸雑費は、締固め機械及び目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表５．２ 諸雑費率

（%）

諸雑費率	0.5~~0.4~~

②　山腹Ｕ型側溝（人力据付）歩掛　（07－09－120）（SPME01）

ア　日当たり施工量

日当たり施工量は、次表を標準とする。

表５．３ 日当たり施工量

（m/日）

掘削断面積（m2）	0.5m2以下	0.5を超え1.0m2以下
日当たり施工量	15.1	13.3

（注）１　本歩掛は、平均運搬距離50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が50mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
　　２　本歩掛は、床掘り（仕上げ含む）、基礎及び埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。
　　３　表面コンクリートの打設は、「04 コンクリート工」により別途計上する。

イ　諸雑費

諸雑費は、締固め機械及び目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表５．４　諸雑費率

(%)

諸雑費率	0.5~~0.4~~

③　山腹コルゲートフリューム据付歩掛　(07－09－130)(SPME02)

ア　日当たり施工量

日当たり施工量は、次表を標準とする。

表５．５　日当たり施工量

(m/日)

掘削断面積（m2）	0.5m2以下	0.5を超え1.0m2以下	1.0を超え2.0m2以下
日当たり施工量	24.3	19.1	14.1

(注)　1　本歩掛は、平均運搬距離50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が50mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2　本歩掛は、床掘り（仕上げ含む。)、基礎及び埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

3　ポリエチレン製角型U字溝据付の場合も本歩掛を適用出来る。

4　表面コンクリートの打設は、「04 コンクリート工」により別途計上する。

イ　諸雑費

諸雑費は、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表５．６　諸雑費率

(%)

諸雑費率	0.4~~0.3~~

（２）山腹明暗渠工

①　山腹U型側溝明暗渠（機械据付）歩掛　(07－09－140)(SPME03)

ア　日当たり施工量

日当たり施工量は、次表を標準とする。

表５．７　日当たり施工量

(m/日)

掘削断面積（m2）	0.5m2以下	0.5を超え1.0m2以下	1.0を超え2.0m2以下	2.0を超え3.0m2以下	3.0を超え4.0m2以下
日当たり施工量	12.4	9.4	7.0	5.2	4.1

(注)　1　本歩掛は、平均運搬距離50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が50mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2　本歩掛は、床掘り（仕上げ含む)、フィルター材、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

3　表面コンクリートの打設は、「04 コンクリート工」により別途計上する。

イ　諸雑費

諸雑費は、遮水シート及び吸出し防止材の設置、締固め機械並びに目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表５．８　諸雑費率

(%)

諸雑費率	4

(注)　遮水シート及び吸出し防止材の材料は、諸雑費に含まないので、別途計上する。

② プレキャスト集水桝据付歩掛　（07－09－190）（SPME07）

プレキャスト集水桝据付の歩掛は、次表を標準とする。

表５．16 プレキャスト集水桝設置歩掛

（１基当たり）

集水桝製品質量			150を超え500kg以下	500を超え1,000kg以下	1,000を超え1,500kg以下	1,500を超え1,700kg以下	摘　要
名　　称	規　　格	単位					
世　話　役		人	0.2	0.3	0.3	0.3	
特殊作業員		〃	0.3	0.3	0.3	0.4	
普通作業員		〃	0.5	0.5	0.6	0.6	
バックホウ運転	排出ガス対策型（第２次基準値） クローラ型・クレーン機能付 山積0.28m3（平積0.2m3） 吊能力1.7ｔ	h	2.2	2.7	3.2	3.5	
不整地運搬車運転	排出ガス対策型（第１次基準値） クローラ型・ダンプ式2.5ｔ積	日	0.1				必要に応じて計上 注）1
諸雑費率		%	0.6~~0.5~~				

（注）１　本歩掛は、平均運搬距離50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が50mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

２　本歩掛は、床掘り（仕上げ含む）、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

３　諸雑費は、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

４　運搬機械が上表により難い場合は、別途考慮する。

５　不整地運搬車は賃料とする。

６　材料使用量

（１）遮水シート、吸出し防止材使用量

遮水シート、吸出し防止材使用量は、次式による。

使用量（㎡）＝設計量（㎡）×（１＋Ｋ）･･･式6.1

表６．１　ロス率（Ｋ）

材料名	遮水シート	吸い出し防止材
ロス率	＋0.10	＋0.10

（２）砕石使用量

埋戻し、基礎、フィルター材等に使用する砕石の使用量は、次式よる。

使用量（㎥）＝設計量（㎥）×（１＋Ｋ）･･･式6.2

表６．２　ロス率（Ｋ）

材料名	砕石
ロス率	＋0.20

（３）コンクリート

集水桝等に使用するコンクリート使用量のロス率は、「04 コンクリート工」による。なお、構造物の種別区分は無筋構造物とする。

（４）暗渠管

暗渠管（塩化ビニール製又はポリエチレン製）使用量のロス率は+0.01とする。

08－05　鋼管・既製コンクリート杭打工

08－05－100　鋼管・既製コンクリート杭打工（パイルハンマ工）

1　適用範囲

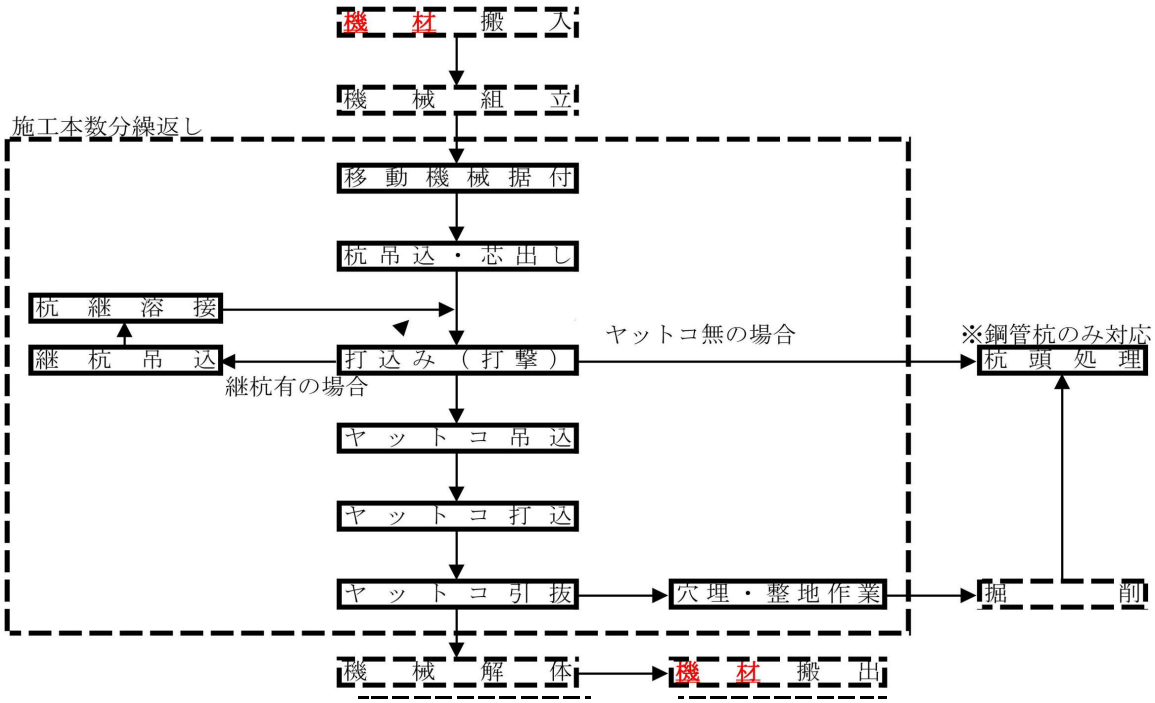
本歩掛は、油圧パイルハンマによる鋼管杭及び既製コンクリート杭（ＰＨＣ杭、ＲＣ杭、ＳＣ杭を含む）の杭打ち作業（直杭）、ヤットコ使用時の穴埋め作業、杭頭処理（鋼管杭のみ）に適用する。

斜杭については、別途考慮する。

2　施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

図2.1　施工フロー



備考　本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3　機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1　機種の選定

機　械　名	規　　格	単位	数　量	摘　　要
クローラ式杭打機	油圧ハンマ・ 直結三点支持式 ラム質量○○ｔ	台	1	
バ　ッ　ク　ホ　ウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型 （第２次基準値） 山積0.28m3（平積0.20m3）	〃		ヤットコ使用の場合計上する。
クローラクレーン	排出ガス対策型（第２次基準値） 油圧駆動式ウインチ・ラチス ジブ型50～55ｔ吊	〃		必要に応じて計上する。

備考１　バックホウは、ヤットコ使用時に発生する穴埋め作業用であり、ヤットコ使用のある現場に適用する。
また、バックホウは賃料とする。

２　クローラクレーンは、次の条件により杭の吊込用として必要に応じて計上する。

①　杭打機の移動範囲内において杭打機リーダの真下に杭置場の設置が不可能な場合
（杭打機の移動範囲は最大30mまでとする。）

②　材料置場が施工基面（杭打機の作業面）より２m以上高い場所に設けられ、杭引き込みのとき杭打機に

６　施工歩掛

(1)　杭10本当たり施工日数（Ｔｄ）

杭10本当たり施工日数は、次式による。

鋼管杭の場合

Ｔｄ＝α×Ｔａ×β　　（日／10本）

既製コンクリート杭の場合

Ｔｄ＝Ｔａ×β　　（日／10本）

Ｔｄ：杭10本当たり施工日数（日／10本）

α：板厚係数

β：作業係数（ヤットコ使用の場合及び打込長10ｍ以下は、β＝１）

Ｔａ：杭種、機種別施工日数（ヤットコ打込みを含む）（日／10本）

①　板厚係数（α）

鋼管杭で板厚の異なる継手の場合には、最小板厚の板厚係数とする。

また、既製コンクリート杭の場合は計上しない。

表6.1　板　厚　係　数（α）

杭打込長（m）	板　厚　(mm)			
	8～10	12	14	16
16m以下	1.00	1.00	1.00	1.00
16mを超え32m以下	1.00	1.14	1.29	1.48
32mを超え48m以下	1.00	1.18	1.37	1.63
48mを超え64m以下	1.00	1.22	1.45	1.73

②　杭種別施工日数（Ｔａ）

１）鋼管杭

表6.2　鋼管杭施工日数（Ｔａ）　（日／10本当たり）

杭打込長（m）	杭　径　(mm)		
	φ400mm以上 φ500mm未満	φ500mm以上 φ800mm未満	φ800mm以上 φ1,200mm未満
16m以下	1.3	1.3	1.3
16mを超え32m以下	2.0	2.4	2.4
32mを超え48m以下	3.1	3.6	3.7
48mを超え64m以下	4.1	4.7	5.1

２）既製コンクリート杭

表6.3　既製コンクリート杭施工日数（Ｔａ）　（日／10本当たり）

杭打込長（m）	杭　径　(mm)	
	φ300mm以上 φ600mm未満	φ600mm以上 φ1,000mm未満
16m以下	1.1	1.3
16mを超え32m以下	2.4	2.8
32mを超え36m以下	3.1	3.7

③　作業係数（β）

ヤットコ使用しない場合は、次表の作業係数を計上する。

表6.4　作　業　係　数（β）

打　込　長　(m)		板　厚　(mm)			
		8～10	12	14	16
鋼　管　杭	10mを超え16m以下	1.31	1.46	1.69	1.92
	16m超え	1.20	1.24	1.28	1.28
既製コンクリート杭	10mを超え16m以下	1.50			
	16m超え	1.12			

備考　ヤットコ使用の場合及び打込長10ｍ以下は、β＝１。

(2) 杭頭処理

杭頭処理は、08-07「既製杭杭頭処理工」による。

7 諸雑費率

諸雑費率は、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(1) 鋼管杭

鋼管杭打設による諸雑費は、裏当てリング及びストッパー、鋼バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、鋼管吊具、吊ワイヤー、先端補強バンド、ヤットコ並びに溶接機の損料、足場材（敷鉄板）賃料、設置・撤去・移設及び電力に関する経費、溶接ワイヤー等の費用である。

なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無に関わらず本諸雑費率を使用できる。

表7.1　諸雑費率（鋼管杭）　（%）

継杭の有無	諸雑費率
継杭なし	34
継杭あり	15~~16~~

(2) 既製コンクリート杭

既製コンクリート杭打設による諸雑費は、吊ワイヤー、ヤットコ並びに溶接機の損料、足場材（敷鉄板）賃料、設置・撤去・移設及び電力に関する経費、溶接ワイヤー等の費用である。

なお、ヤットコの有無及び溶接機の有無に関わらず本諸雑費率を使用できる。

表7.2　諸雑費率（既設コンクリート杭）　（%）

諸雑費率	3

8 単　価　表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工10本当たり単価表

名　称	規　格	単　位	数　量	摘　要
世話役		人	Ｔｄ×1	表5.1
とび工		〃	Ｔｄ×2	〃
溶接工		〃	Ｔｄ×1、(2)	〃 （　）内は鋼管径800mm以上の場合
杭		本	10	肉厚、杭長ごとに別段書き
クローラ式杭打機運転	油圧ハンマ・直結三点支持式　ラム質量○○ｔ	日	Ｔｄ	図4.1、図4.2　機械損料
バックホウ賃料（クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第２次基準値）山積0.28m3（平積0.2m3）	〃	Ｔｄ	ヤットコ使用時計上 機械賃料
クローラクレーン運転	油圧駆動式ｳｲﾝﾁ・ﾗﾁｽｼﾞﾌﾞ型排出ガス対策型（第２次基準値）50～55ｔ吊	〃	Ｔｄ	必要に応じ計上 機械損料
諸雑費		式	1	表7.1

備考　Ｔｄ：杭10本当たりの施工日数

(2) 機械運転単価表

機械名	規　　格	指　定　事　項	
クローラ式杭打機	油圧ハンマ・ 直結三点支持式	運転労務数量→1.00　機械損料数量→1.77~~1.75~~ 燃料消費量→下記のとおりとする。	
		ラム重量	燃料消費量（ℓ／日）
		2ｔ	87~~85~~
		4～4.5ｔ	129~~123~~
		6.5～8ｔ	125~~123~~
		10～12.5ｔ	177~~160~~
バックホウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型 （第２次基準値） 山積0.28m3（平積0.2m3）	運転労務数量→1.00　機械賃料数量→1.6 燃料消費量→3.5~~3.8~~	
クローラクレーン	油圧駆動式ｳｲﾝﾁ・ﾗﾁｽｼﾞﾌﾞ型 排出ガス対策型（第２次基準値） 50～55ｔ吊	運転労務数量→1.00　機械損料数量→1.13~~1.12~~ 燃料消費量→27	

(3) 鋼管杭杭頭処理用機械運転単価表

電気溶接機	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ駆動・直流アーク式 ・排出ガス対策型（第１次基準値） 最大溶接電流300Ａ	燃料消費量→27~~32~~

5　単価表

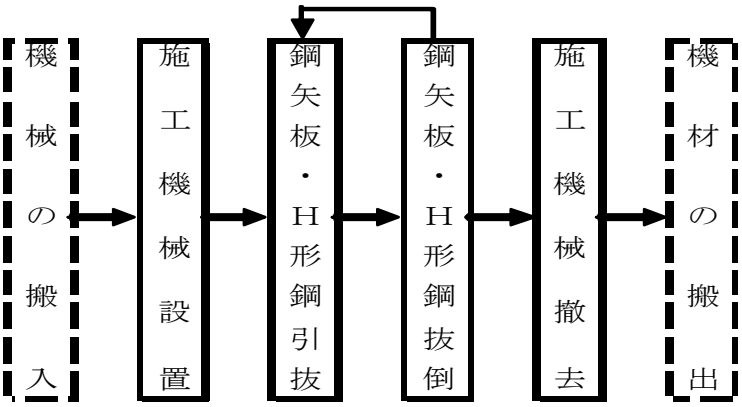
表5.1　木杭打工100本当たり単価歩掛　　(100本当たり)

名　　称	規　　格	単位	数　量	摘　　要
世　　話　　役		人	1.72	
普　通　作　業　員		〃	3.45	
木　　杭		本	100	別途計上
大型ブレーカ運転	油圧式600～800kg	日	1.72	
諸　　雑　　費		%	2	

表5.2　機械運転単価

名　　称	規　　格	単位	数　量	摘　　要
特　殊　運　転　手		人	1.00	指定事項
軽　　油		〃	62.00	指定事項
機　械　損　料	ｸﾛｰﾗ型0.45m3(平積0.35m3)	日	1.40~~1.39~~	指定事項
機　械　損　料	大型ﾌﾞﾚｰｶ油圧式600～800kg	日	1.40~~1.39~~	指定事項

２－３　引抜き



※敷き鉄板の施工を含む

（注）本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

３　機種の選定

３－１　バイブロハンマの規格

鋼矢板、H形鋼の打込み、引抜きに使用するバイブロハンマの規格は、次表を標準とする。

なお、ハット形鋼矢板の打込に使用するバイブロハンマは、フランジ把持式の専用チャック装備を標準とする。

（１）打込み作業

ａ）電動式バイブロハンマ

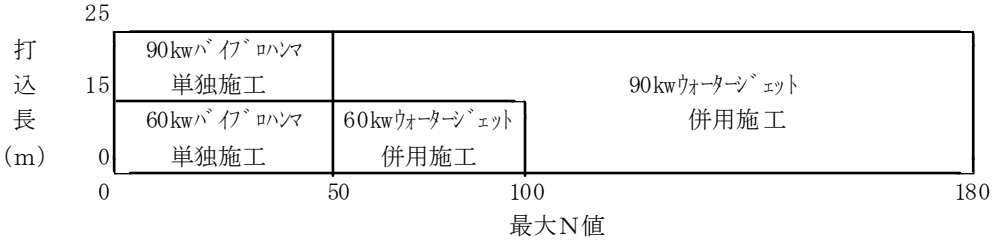


表3.1　機種の選定

		バイブロハンマ単独施工	ウォータージェット併用施工	
最大N値		Nmax＜50	50≦Nmax＜100	100≦Nmax≦180
打込長	15m以下	電動式・普通型 60kW　電動式・可変モーメント型（ハット型鋼矢板用）60kw		電動式・普通型 90kW 電動式・可変モーメント型（ハット型鋼矢板用）90kw
	25m以上	電動式・普通型 90kW 電動式・可変モーメント型（ハット型鋼矢板用）90kw		
打込用ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ		－	エンジン式・排出ガス対策型（第3次基準値） ポンプ圧力14.7MPa　吐出量325L/min×２台 ※（14.7MPa　325L/min×１台）（注１）	

（注）１　※はNmax＜50 で転石等によりやむを得ずウォータージェットを使用する必要が生じた場合に計上するものである。

２　対象地盤の最大N値が50を超えるものについては、次式により概算N値を求めた上で適用する。

$$概算N値＝\frac{1,500}{落下50回当たり貫入量（cm）}$$

３　打込長は、地表面よりの鋼矢板及びH形鋼の打込み長であり、矢板長及びH形鋼長とは異なる。

４　本歩掛の適用範囲は、表3.2、表3.3のとおりとするが、これにより難い場合は別途考慮する。

表3.2　打込み長　（m）

鋼矢板種類		普　通					広　幅			広幅（ハット型）			
鋼矢板型式		Ⅰ A型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ L型	Ⅱ w型	Ⅲ w型	Ⅳ w型	10H型	25H型	45H型	50H型
打込長（m）	ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ 単独施工	6 以下	15 以下	19 以下	25 以下	25 以下	15 以下	19 以下	25 以下	15 以下	19 以下	19 以下	19 以下
	ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ 併用施工	－	15 以下	19 以下	25 以下	25 以下	15 以下	19 以下	25 以下	25 以下	25 以下	－	－

H形鋼の型式		H200	H250	H300	H350	H400
打込長（m）	ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ 単独施工	12以下	15以下	25以下	25以下	25以下
	ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ 併用施工	15以下	19以下	25以下	19以下	25以下

b）油圧式バイブロハンマ

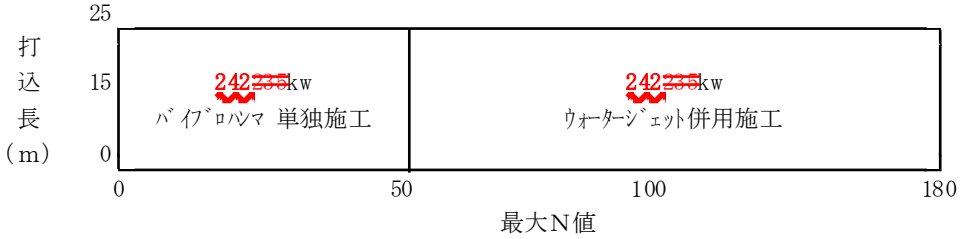


表3.3　機種の選定（油圧式バイブロハンマ）

	バイブロハンマ単独施工	ウォータージェット併用施工	
最　大　N　値	Nmax＜50	50≦Nmax＜100	100≦Nmax≦180
杭込長25m以下	油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型（第3~~2~~次基準値）・最大起振力 473ｋＮ・242~~235~~kW 油圧式・可変超高周波型（ハット型鋼矢板用）・排出ガス対策型（第３次基準値）・最大起振力 473kN・242kW		
杭打用 ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ	－	エンジン式・排出ガス対策型（第3~~1~~次基準値） ポンプ圧力14.7ＭＰａ　吐出量325Ｌ/min×２台 ※（14.7ＭＰａ　325Ｌ/min×１台）	

（注）１　※はNmax＜50 で転石等によりやむを得ず杭打用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合に計上するものである。

２　対象地盤の最大Ｎ値が50を超えるものについては、次式により概算Ｎ値を求めた上で適用する。

$$概算N値＝\frac{1,500}{落下50回当たり貫入量（cm）}$$

３　打込長は、地表面よりの鋼矢板及びＨ形鋼の打込み長であり、矢板長及びＨ形鋼長とは異なる。

４　本歩掛の適用範囲は、表3.4のとおりとするが、これにより難い場合は別途考慮する

表3.4　打込み長　（m）

鋼矢板種類		普　通					広　幅			広幅（ハット型）			
鋼矢板型式		Ⅰ A型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ L型	Ⅱ w型	Ⅲ w型	Ⅳ w型	10H型	25H型	45H型	50H型
打込長（m）	ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ 単独施工	－	15 以下	19 以下	25 以下	25 以下	15 以下	19 以下	25 以下	15 以下	19 以下	19 以下	19 以下
	ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ 併用施工	－	15 以下	19 以下	25 以下	25 以下	15 以下	19 以下	25 以下	25 以下	25 以下	－	－

H形鋼の型式		H200	H250	H300	H350	H400
打込長（m）	ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ 単独施工	6以下	15以下	25以下	25以下	25以下
	ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ 併用施工	－	19以下	25以下	19以下	25以下

（２）引抜き作業

引抜き作業に使用する機種は、Ｎ値に関係なく次表とする。

表3.5　引抜き作業の機種・規格

	電動式バイブロハンマ		油圧式バイブロハンマ	
	引　抜　長	規格（kW）	引　抜　長	規格（kW）
鋼　矢　板 Ｈ　形　鋼	25ｍ以下	60kw	25ｍ以下	油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型（第3~~2~~次基準値）・最大起振力 473kN・242~~235~~kW

（注）１　上表は、広幅鋼矢板（Ⅱw、Ⅲw、Ⅳw）及びハット形鋼矢板（10H、25H、45H、50H）には適用しない。

２　引抜き長は、地表面より鋼矢板及びH形鋼の引抜き長であり、鋼矢板長及びH形鋼長とは異なる。

３－２　付属機械

バイブロハンマの付属機械の機種・規格は表3.6を標準とするが、現場条件によりこれにより難い場合は、別途考慮することができる。

表3.6　付属機械の機種・規格

ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ種別	施　工　内　容	機　種	規　　格
電動式ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ	打込み（WJ併用施工を含む）・引抜き	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ	油圧駆動式ｳｲﾝﾁ・ﾗﾁｽｼﾞﾌﾞ型・排出ガス対策型（2014年規制~~第1次基準値~~）50～55ｔ吊
油圧式 バイブロハンマ	打込み（WJ併用施工を含む）		
	引抜き	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型・排出ガス対策型（第3~~1~~次基準値）25ｔ吊

（注）　現場条件により濁水処理が必要な場合は、別途積算する。

４　編成人員

鋼矢板、H形鋼の打込み、引抜き作業の編成人員は、表4.1を標準とする。

表4.1　打込み、引抜き作業の編成人員　（人）

項目	区　　分	世　話　役	と　び　工	普通作業員	溶接工
ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ 単独施工 （打込・引抜）	継施工なし	1	2	1	－
	鋼矢板（溶接接合）	1	2	1	2
	H形鋼（ボルト接合）	1	3	1	－
ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ 併用施工	継施工なし	1	2	1	1
	鋼矢板（溶接接合）	1	2	1	2
	H形鋼（ボルト接合）	1	3	1	1

表5.14　補正係数（ｆ）　　Ｈ形鋼１枚（本）当り２箇所以上継施工を行う場合）

適　用	H形鋼　H250、H300、H350、H400											
最大Ｎ値	単独施工 (Nmax＜50)				ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ併用施工 (50≦Nmax＜100)				ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ併用施工 (100≦Nmax≦180)			
継施工箇所数	２箇所	３箇所	４箇所	５箇所	２箇所	３箇所	４箇所	５箇所	２箇所	３箇所	４箇所	５箇所
補正係数	0.66	0.49	0.39	0.33	0.72 (0.69)	0.57 (0.54)	0.48 (0.44)	0.41 (0.37)	0.77	0.63	0.54	0.48

（注）ウォータージェット併用施工における（　）書きは、Nmax＜50の場合で転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合。

５－３　継施工費

継施工が必要な場合の費用は、次表による。

表5.15　継施工費　　（円/箇所）

鋼矢板・Ｈ形鋼		継施工費
鋼矢板	Ⅱ型	8,160~~7,970~~
	Ⅲ型	8,580~~8,330~~
	Ⅳ型	8,880~~8,450~~
	ⅤL型	12,200~~11,600~~
	ⅦL型	12,500~~11,900~~
	Ⅱw型	9,760~~9,390~~
	Ⅲw型	10,000~~9,630~~
	Ⅳw型	10,600~~10,100~~
	10H型（ﾊｯﾄ）	15,800~~15,100~~
	25H型（ﾊｯﾄ）	16,900~~16,100~~
Ｈ形鋼	H250	28,800~~26,100~~
	H300	36,300~~33,200~~
	H350	50,900~~46,900~~
	H400	73,400~~67,400~~

５－４　引抜き作業

鋼矢板、Ｈ形鋼の１日当たり引抜き枚数及び本数（Ｎ）は次表による。

表5.16　日当たり施工枚（本）数　　（枚（本）/日）

引抜長	施工枚（本）数
２以下	91
４以下	78
６以下	68
９以下	58
12以下	50
15以下	43
19以下	38
23以下	33
25以下	30

6　諸　雑　費

諸雑費は、共下がり防止及び導材（ガイド）用の溶接棒及び電気溶接機損料、導材（ガイド）賃料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、~~電気溶接機損料、~~ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費（配管バンド及び溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モーターポンプ損料、水槽及び配管損料）、現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表6.1　諸　雑　費　率　　（%）

施工区分	バイブロハンマ機種・規格		諸雑費率				
			継施工無し		継施工有り		
			普通広幅鋼矢板 H形鋼	ハット形鋼矢板	普通広幅鋼矢板	ハット形鋼矢板	H形鋼
ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ 単独施工 打込み	電動式	60kW	19	16	17	15	17
		90kW	22	18	20	17	20
	油圧式	242~~235~~kW	1	1	2	2	1
ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ 併用施工 打込み	電動式	60kW	18(22~~20~~)(注1)	16(19)(注1)	18(21)(注1)	16~~18~~(19)(注1)	17(20)(注1)
		90kW	20(24)(注1)	18(21)(注1)	20(23)(注1)	17(20)(注1)	19~~20~~(22)(注1)
	油圧式	242~~235~~kW	6(7)(注1)	5(6)(注1)	6(7)(注1)	6(6)(注1)	5(6)(注1)
引抜き	電動式	60kW	18(注2)	—	—	—	—
	油圧式	242~~235~~kW	0.2(注2)	—	—	—	—

（注）1　ウォータージェット併用施工・打込みにおける（　）書きは、Nmax＜50の場合で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合。

2　引抜きの諸雑費率は、広幅鋼矢板には適用しない。

7　単価表

（1）バイブロハンマ杭打機による鋼矢板等の打込み又は引抜き10枚（本）当り単価表

（鋼矢板等打込み、又は引抜き長○○m）

名　称	規　格	単　位	数　量	摘　要
世話役		人	$\frac{10}{N}$ ×1	表4.1 表5.1～表5.2、表5.5～表5.6、表5.13、表5.16
とび工		〃	$\frac{10}{N}$ ×2(3)	〃 〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N}$ ×1	〃 〃
溶接工		〃	$\frac{10}{N}$ ×2	〃　（必要に応じて計上） 〃
バイブロハンマ杭打機運転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1、表3.3、表3.5、表3.6 〃
継施工費		箇所	10×x	表5.15　（必要に応じて計上）
諸雑費		式	1	表6.1
計				

備考　N：日当たり施工枚数（枚（本）/日）

x：1本当り継施工箇所数（箇所／枚（本））

（　）書き：H形鋼（継施工あり）の場合に適用する。

（２）バイブロハンマ杭打機とウォータージェット併用による鋼矢板等の打込み10枚（本）当たり単価表

（鋼矢板等打込み長○○m当たり）

名　　称	規　格	単　位	数　　量	摘　　要
世　話　役		人	$\frac{10}{N}$ ×1	表4.1 表5.3～表5.4、表5.7～表5.8、表5.16
と　び　工		〃	$\frac{10}{N}$ ×2(3)	〃 〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N}$ ×1	〃 〃
溶　接　工		〃	$\frac{10}{N}$ ×1 [2]	〃　　（必要に応じて計上） 〃
バイブロハンマ 杭打機運転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1、表3.3、表3.6 〃
杭　打　用 ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ運転		〃	$\frac{10}{N}$	表3.1、表3.3 〃
継施工費		箇所	10×x	表5.15　　（必要に応じて計上）
諸　雑　費		式	1	表6.1
計				

備考　N：日当たり施工枚数（枚（本）／日）

x：１本当り継施工箇所数（箇所／枚（本））

（　）書き：H形鋼（継施工あり）の場合に適用する。

［　］書き：鋼矢板（継施工あり）の場合に適用する。

８　その他

（１）ウォータジェット併用施工時に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。

（２）ウォータジェット併用施工時に発生する濁水の運搬・処理が必要な場合は、別途計上する。

９　機械運転単価表

（運転日当り）

名　　称	単　位	電動式ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ杭打機　電動式・普通型 60kW・90kW	適　用	機械工歩掛
特殊運転手	人	1.0	打込み 引抜き	02-08-290 02-08-300
軽　油	ℓ	76~~65~~		
ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ単体損料	供用日	1.31~~1.3~~		
ｸﾛｰｸﾚｰﾝ損料	供用日	油圧駆動式ｳｨﾝﾁ・ﾗﾁｽｼﾞﾌﾞ型・排出ガス対策型 （2014年規制~~第１次基準値~~）50～55t吊 1.31~~1.3~~		

（運転日当り）

名　　称	単　位	電動式ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ杭打機（ﾊｯﾄ形鋼矢板用） 電動式・可変ﾓｰﾒﾝﾄ型 60kW・90kW	適　用	機械工歩掛
特殊運転手	人	1.0	打込み	02-08-302 02-08-304
軽　油	ℓ	76~~65~~		
ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ単体損料	供用日	1.31~~1.3~~		
ｸﾛｰｸﾚｰﾝ損料	供用日	油圧駆動式ｳｲﾝﾁ・ﾗﾁｽｼﾞﾌﾞ型・排出ガス対策型 （2014年規制~~第１次基準~~）50～55t吊 1.31~~1.3~~		

（運転日当り）

名　　称	単　位	油圧式ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ杭打機　油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型（第3~~2~~次基準値）・最大起振力 473ｋN・242~~235~~kW	適　用	機械工歩掛
特　殊　運　転　手	人	1.0	打込み	02-08-310
軽　　油	ℓ	473~~523~~		
ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ単体損料	供用日	1.31~~1.3~~		
ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ損料	供用日	油圧駆動式ｳｲﾝﾁ・ﾗﾁｽｼﾞﾌﾞ型・排出ガス対策型（2014年規制~~第1次基準~~）50～55t吊 1.31~~1.3~~		

（運転日当り）

名　　称	単　位	油圧式ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ杭打機 油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型（第3~~2~~次基準値）・最大起振力 473ｋN・242~~235~~kW	適　用	機械工歩掛
特　殊　運　転　手	人	1.0	引抜き	02-08-312
軽　　油	ℓ	484~~570~~		
ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ単体損料	供用日	1.21~~1.2~~		
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ損料	供用日	油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型・排出ガス対策型（第3~~1~~次基準値）　25t吊 1.21~~1.2~~		

（運転日当り）

名　　称	単　位	油圧式ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ杭打機（ﾊｯﾄ形鋼矢板用）油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型（第3~~2~~次基準値）・最大起振力 473ｋN・242~~235~~kW	適　用	機械工歩掛
特　殊　運　転　手	人	1.0	打込み	02-08-314
軽　　油	ℓ	473~~523~~		
ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ単体損料	供用日	1.31~~1.3~~		
ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ損料	供用日	油圧駆動式ｳｲﾝﾁ・ﾗﾁｽｼﾞﾌﾞ型・排出ガス対策型（2014年規制~~第1次基準~~）50～55t吊 1.31~~1.3~~		

（運転日当り）

名　　称	単　位	杭打用ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ エンジン式・排出ガス対策型（第3~~1~~次基準値）ポンプ圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	適　用	機械工歩掛
軽　　油	ℓ	139~~120~~	打込み	02-08-320
ｳｫｰﾀｰｼﾞｪｯﾄ損料	供用日	1.31~~1.3~~		